

をつくる～今求められる、『教師の出番』～

「協働的な学び」の観点から

研究成果報告書
P12、P13

多様な他者と豊かにかかわりながら問題解決していこうとする態度を育成する

個々の考えやよい点を尊重しながら交流し、自らの知識や技能を組み合わせたり、新たな価値を創造したりしながら解決する「個を生かす協働的な学びの場」を設ける。



「個を生かす」視点から「協働的な学び」の充実を図る

① 集団で解決する
必要感をもって
協働的な学びの場に臨めるようにする

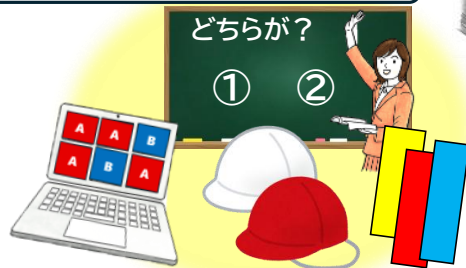
教材研究

授業前の見取り

学びがいのある学習課題



自分の考えとのずれ



次の学び

必要感のある
協働的な学びの場



② 個々の考えを生かし
学びを深める



児童生徒の思考を
方向付ける
可視化、焦点化、共有化

児童に「語らせ」
教師が「つなぐ」

③ 「協働的な学び」の
成果を自覚



立ち止まって
考える場

視点の工夫

個々の考えを尊重しながら交流し、
自らの考えを広げたり深めたりする

課題解決

自己の学びに還元
協働的に学ぶよさを実感

1 集団で解決する必要感をもって、協働的な学びの場に臨めるようにする

集団の学びの中で、一人一人が自分の力を発揮できるようにするためには、児童生徒の「解決したい」「みんなで学び合いたい」といった思いや願いを引き出す、**学びがいのある学習課題にすることが必要**です。また、課題解決途中で**自分の考えとのずれに出合う**ことで、「なぜだろう」「話を聞いてみたい」という思いを高めることもできるでしょう。

2 個々の考えを生かし学びを深めていけるようファシリテートする

個々の学びが、集団の学びを通して深まるようにするためには、**ファシリテーターとして児童生徒の思考を方向付ける教師の働きかけ**が必要です。一人一人のよい点や可能性を生かし、異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出していけるように、**児童生徒に「語らせ」、教師が「つなぎ」**ましょう。

3 児童生徒が「協働的な学び」の成果を自覚できるようにする

「協働的な学び」の中での個々の学びは、聞くだけで終わらせてしまうと曖昧な理解に留まってしまうことがあります。そのため、その**成果を自覚**できるように、交流後に、**立ち止まって考える場**を設けることが大切です。このことが、協働的に学ぶことのよさを実感することにつながるでしょう。